



わたしの青少年赤十字

詩・100文字提案作品集

「東日本大震災」 子どもたちからの声



はじめに

青少年赤十字の大きな特色は、学校教育の中に組織され、教師の適切な指導のもとで実践されていることです。

青少年赤十字に加盟している学校では、子どもたちがより積極的に青少年赤十字活動を推進することによって、人間尊重の精神を育み、自らが豊かな人間性の醸成を図ってほしいと願っています。

そこで、福島県支部では、子どもたちが実践していること、思っていることを一〇〇文字程度に表現した「詩・一〇〇文字提案作品」を募集いたしました。本年度も、海外の赤十字社から寄せられた救援金で推進されている「東日本大震災復興支援推進事業」の一つとして実施しています。

多数の優秀な作品の中から「日本赤十字社社長賞」「日本赤十字社福島県支部長賞」「青少年赤十字福島県指導者協議会長賞」「福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞」を特別賞として選び、以下、「優秀賞」「佳作」「入選」を選定させていただきました。また、受賞した作品が多数の学校には「学校賞」を、五年連続で応募された学校には「学校奨励賞」を授与させていただきました。

今年度もこれらの受賞作品をまとめ、本冊子を刊行することができましたことに深く感謝いたします。「人道」の精神のもと、子どもたちが未来に大きな夢をもち、その実現に向けて努力する生き生きとした姿を感じ取っていただければ幸いです。

募集作品

□詩（いのちの詩・愛の詩）

人間のいのちはかけがえないもの。

そのいのちを守るために、自分や周りの人、生きものを大切にしなければなりません。そんなみなさんの素直な願いや感動を、そして未来に向けての夢・希望をぜひ詩に託して表現してほしいと願い、作品を募集しました。

□わたしの一〇〇文字提案

「気づき、考え、実行したこと、しようとしたこと」を次のテーマから選んで、自分の考えを端的に表現した作品を募集しました。

「わたしにできるボランティア」

「わたしのふるさと」

「わたしが感動したことはやできごと」

はじめに・募集作品

目次

特別賞及び学校賞・学校奨励賞

特別賞受賞者・学校賞・

学校奨励賞受賞校……………4

日本赤十字社社長賞……………5

日本赤十字社福島県支部長賞……6

青少年赤十字福島県

指導者協議会長賞……………10

福島県青少年赤十字

賛助奉仕団委員長賞……………11

詩「いのちの詩・愛の詩」

優秀賞……………14

佳作……………17

入選……………24

一〇〇文字提案

「わたしにできるボランティア」

優秀賞……………26

佳作……………29

入選……………38

一〇〇文字提案

「わたしのふるさと」

優秀賞……………40

佳作……………43

入選……………50

一〇〇文字提案

「わたしが感動したことばや できごと」

優秀賞……………52

佳作……………55

入選……………62

作品応募校……………63

年度別応募状況・令和二年度

テーマ別応募作品数……………64

作品審査を終えて……………65

審査にご協力いただいた皆様……67

〔表紙〕

日本赤十字社東京都支部

石田 遊星

特別賞受賞作品



日本赤十字社社長賞

「いのちの詩・愛の詩」

学校法人松韻学園福島高等学校

一年 鈴木 美紀

日本赤十字社福島県支部長賞

「いのちの詩・愛の詩」

福島市立福島第一中学校

一年 佐藤 環

「わたしにできるボランティア」

須賀川市立第三中学校

三年 増子 奏流

「わたしのふるさと」

福島市立福島第一小学校

五年 曲山 綾香

「わたしが感動したことばやでござい」

郡山市立富田東小学校

六年 橋本 遥香

青少年赤十字福島県指導者 協議会長賞

「わたしのふるさと」

白河市立白河第五小学校

五年 松本 昊大

福島県青少年赤十字賛助 奉仕団委員長賞

「わたしにできるボランティア」

南会津町立松沢小学校

六年 大桃 小窓

学校賞

福島市立福島第一小学校

郡山市立富田東小学校

相馬市立飯豊小学校

福島市立福島第一中学校

須賀川市立第三中学校

学校奨励賞

郡山市立富田西小学校

須賀川市立柏城小学校

須賀川市立第三中学校

福島県立平支援学校

日本赤十字社 社長賞

「いのちの詩・愛の詩」

学校法人松韻学園福島高等学校 一年 鈴木 美紀

灰になる前のおばあちゃんの手は
小さくて冷たかった
でもこの手は
戦場で多くの命を救った手
思いやりに満ちた看護師の手
誰よりも大きい手
何よりもあたたかい手
まだ心の中にある
あのおばあちゃんの手

日本赤十字社 福島県支部長賞

「いのちの詩・愛の詩」

福島市立福島第一中学校 一年 佐藤 環

「おはよう」と母。

「あー」と私。あーはあいさつじゃないと朝から怒られる。

分かっているけど、面倒くさい。

でも、母のおはようになんて本当は元気をいっぱいもらってる。

明日はちゃんと「おはよう」と「ありがとう」を言おうかな。

「わたしにできるボランティア」

須賀川市立第三中学校 三年 増子 奏流

去年の台風で、僕の友達が被災し、僕はボロボロのジャージで友達の家へ行った。友達のお母さんの目には涙。

僕は必死に働いた。

友達からの「ありがとう」という言葉に、心があたたかくな
った。

ボランティアさせてくれてありがとう。

「わたしのふるさと」

福島市立福島第一小学校 五年 曲山 綾香

会津地方の雪景色。中通りの果物王国。浜通りのさわやかな風。

自然豊かな大地。やさしい人々。何事もあきらめない強い心。

世界中の人は、福島のいい所をどれだけ知っているのだろう。

よし、私が伝えていくぞ。

「わたしが感動したことばやできごと」

郡山市立富田東小学校 六年 橋本 遥香

おばあちゃんのお家から帰る時、

私はいつもおばあちゃんとハグをする。

いつの間にかおばあちゃんの顔と私の顔が近くなった。

「大きくなったね。」

とおばあちゃんがうれしそうで私もうれしくなった。

青少年赤十字福島県指導者協議会長賞

「わたしのふるさと」

白河市立白河第五小学校 五年 松本 昊大

ぼくが生まれた場所

浪江町

全くおぼえていない

一年六か月間

住んでいた場所

その土の上に

この足で立っていた

いつか一人で自由に

その土をふみしめたい

福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞

「わたしにできるボランティア」

南会津町立桧沢小学校 六年 大桃 小窓

バケツが重くなるたびに、

どんどんうれしくなってくる。

校庭の石拾い。

自分にできることが、こんな近くにあったんだ。

また、バケツが重くなる。

拾った石は、私たちががんばったしるしだ。

詩
「いのちの詩・愛の詩」



「いのちの詩・
愛の詩」

優秀賞

福島市立福島第一小学校

二年 国分 大士

郡山市立富田東小学校

二年 小林龍之介
六年 坂本 愛果

福島市立福島第一中学校

二年 満山 愛香



「いのちの詩・愛の詩」優秀賞

福島市立福島第一小学校 二年 国分 大士

一年間、病氣とたたかったおじい
ちゃん。

あたたかい手のぬくもり、わすれ
ないよ。

やさしい笑顔わすれないよ。

空から見ててね、ぼくのこと。

おじいちゃんが買ってくれたランド

セルを背おって、

今日もぼくは学校へ行くよ。

郡山市立富田東小学校 二年 小林龍之介

ぼくのママは、おこりんぼう。

ゲームのやりすぎは、だめ。しゅくだ
いしないと、だめ。ケンカするのは、だ
め。

だけど、かならず、いいよって言うの
は、

「ギューして。」

ってぼくが言うとき。

郡山市立富田東小学校 六年 坂本 愛果

「生きていくだけで百点満点」

母は私が小さいころからそう言った。
最初はその言葉の意味が分からなかった。
た。

でも今、なぜかよく分かる。心にひびいた。

私は今日も、一生けん命生きている。

福島市立福島第一中学校 二年 満山 愛香

私の生きる場所

明るく楽しい学校

ホッとする家族

平和で安全なこの地域

私の生きる所

支え合い笑い合う友達

励ましてくれる先生

笑顔のたえない家族

優しく見守る地域の方

私は ここで生きる

「いのちの詩・
愛の詩」

佳
作

郡山市立片平小学校

五年 柳田 碧唯

六年 國分 陽葵

郡山市立富田東小学校

一年 遠藤ひなた

二年 吉田 千紗

五年 安田 凌

五年 岸野 夢斗

六年 前林里央梨

六年 山本 勇雅

須賀川市立阿武隈小学校

六年 緑川 衣真

須賀川市立柏城小学校

四年 小室 楓香

玉川村立玉川第一小学校

六年 須藤 由衣

六年 小針 彪聖

相馬市立中村第二小学校

五年 桑名 駿

相馬市立飯豊小学校

一年 持舘 滉大

三年 今野日菜寧

三年 後藤 優季

三年 末永ひなた

六年 福島 楓斗

福島市立福島第一中学校

二年 村上 心春

白河市立白河第二中学校

一年 本田 侑樹

三年 薄井 咲菜

学校法人松韻学園福島高等学校

一年 車田 早雪



『いのちの詩・愛の詩』佳作

郡山市立片平小学校 五年 柳田 碧唯

ぼくの家に犬がやってきた。ずっとずっと飼いたかった犬がやってきた。初めてだっこのときおどろいた。

「あったかい。」

生きているんだ。」

君のことは、ぼくが守るよ。ずっとずっといっしょにいようね。

郡山市立富田東小学校 一年 遠藤ひなた

いってきます。

わたしは、がっこうにいくよ。

いきたくないとき、ないちやうよ。

でも、ねえねがてをギュッとしてくれると、がんばれる。

だから、きょうもいっしょにがっこうにいこうね。

郡山市立片平小学校 六年 國分 陽葵

ひいおばあちゃんが、眠っている。

手を握るととても冷たかった。死んじゃったんだって。

昨日もあんなに笑っていたのに。私は涙が止まらなかった。

でも悲しただけじゃなかった。ありがとう。たくさん笑顔があった。

郡山市立富田東小学校 二年 吉田 千紗

かぞくのすきなところ

パパのえがお

ママのやさしいかおり

ねえねのおもしろさ

いもうとのほっぺ

かぞくがだいすき

みんなをたすけたい

わたしはわらわせる

かぞくがわらうと

じぶんもげんき！

郡山市立富田東小学校 五年 安田 凌

お母さんはいつも
「かたづけしたの？」
「だしっぱなしだよ。」
「そろそろねたら？」
「ちゃんと食べた？」
「おふろどうぞ。」
とけっこううるさい。
すごく面倒くさいと思うんだけど、嫌いじゃない。
何か不思議。

郡山市立富田東小学校 五年 岸野 夢斗

命ってふしぎだな
何もできなかったのに
食べることも
歩くことも
しゃべることも
三才になったばかりの弟
今は僕の後ろを
必死においかけてくる
弟が笑うとみんな笑顔
命ってすごいな

郡山市立富田東小学校 六年 前林里央梨

苦しい時
悲しい時は
泣いていい
一生懸命生きることが
いのちにできる恩返し
つらい時
きつい時
それは
「生きている」
しるし
命はみんなの宝物

郡山市立富田東小学校 六年 山本 勇雅

コロナがはやり、家にほとんどいるようになった。
つまらなくて、ゲームしたりもしたけれど、あきて、お母さんの手伝いをするようになった。
せんたく、そうじ、ご飯のじゅんび、家にいるようになって、お母さんの大変さを知った。
ばくも、できる事からやろうと思えるようになった。

須賀川市立阿武隈小学校 六年 緑川 衣真

体の不自由な子を
百パーセント治せるような物があつたら
いいのにな
そんな物作れない
でも
体の不自由な子の手助けをすることはできる
私はそれが人間の愛なのだと思う

玉川村立玉川第一小学校 六年 須藤 由衣

あたたかい太陽
しみわたる雨
優しく照らす月
元気をくれる花
思いやりの心
差し伸べられる手
「大丈夫」と心配する声
たくさんさんの物・人に支えられて生きている
ずっと大切にしたい

須賀川市立柏城小学校 四年 小室 楓香

「命が大切だ」
と言われるより、
「あなたが大切だ」
と言われたほうが、
生きていくための道になる。

玉川村立玉川第一小学校 六年 小針 彪聖

友情が心を開くかぎ
友情が人を助けるかぎ
この友情というかぎは
信頼し合ってやっとできる
仲間と共に作り上げていくもの
大切な大切な
そしてあたたかな
心のかぎ

相馬市立中村第二小学校 五年 栗名 駿

「どっこいしょ」

じいちゃんが歩き出す。スピードを合わせる。小さいころは、じいちゃんがぼくを見守った。

今は、ぼくの番だ。じいちゃんが転んだらたいへんだから。じいちゃん、長生きしてね。大好きだよ。

相馬市立飯豊小学校 三年 今野日菜寧

わたしは一人っ子だ。時どきさみしくなる。

お母さんに聞いてみた。

「妹がほしい。」

お母さんはこまった顔をした。

そしてわらってぎゅっとだきしめてくれた。

さみしい気持ちがすーっときえて、

しあわせな気持ちでいっぱいになった。

相馬市立飯豊小学校 一年 持舘 滉大

ちいさなあまがえる二ひきつかまえた。

むしかごで、しばらくかっていたけれど、えさのむしをつかまえられなくて、やせてきた。しんじやったらいやだから、かごからだしてにがしてあげたよ。

ちいさな「いのち」

相馬市立飯豊小学校 三年 後藤 優季

毎朝「おはよう」と、元気な声で来る九十七才のひいおじいさん。

ぼくも、「おはよう。」と元気に答える。

朝、来ない日は心ばいで家に行って見る。

「ねぼうしたんだよ。」

とてれたようにわらう。ぼくも安心してわらう。

相馬市立飯豊小学校 三年 末永ひなた

私は、まほうつかい、
「エーン、エーン。」
なっている妹に「おんぶー。」という
ヨチヨチあるいて、私のせ中にピタッ。
ついでに妹のなみだもピタッ。
ほうらなきやんだ。
私はおんぶのまほうつかい。

福島市立福島第一中学校 二年 村上 心春

「なんとかなるよ」より、「辛かったね。」
言葉一つで、相手に与える印象は大きく違ってきます。
私は、辛かったねの方が好きです。なぜなら、近くにいるよ
うな、温かい感じがするからです。

相馬市立飯豊小学校 六年 福島 楓斗

たった一つの
ありがとうで
人は優しさを感じる
たった一つの
がんばれで
人は幸せを感じる
たった一つの
一言で
人は人生を
大きく変える

白河市立白河第二中学校 一年 本田 侑樹

ソーシャルディスタンスは
あなたもわたしも
守るため
人と人との離すための距離ではなくて
人と人との絆が続くための
ソーシャルディスタンス
未来が明るくなるための
ソーシャルディスタンス

白河市立白河第二中学校 三年 薄井 咲菜

「大丈夫だよ、辛い時はそばにいるから。」

ある日友人に言われ胸が締めつけられた。

その言葉に私は心から救われた。

これまで家族からの愛しか感じた事がない私が、

彼女からもらった友情という愛を教わった瞬間だった。

学校法人松韻学園福島高等学校 一年 車田 早雪

姉が生まれたときの写真、お父さんとお母さんが嬉しそうに笑っている。

私が生まれたときの写真、姉も一緒に笑っている。

新しい命は、みんな愛と笑顔であふれている。



『いのちの詩・愛の詩』入選 受賞者

福島市立福島第一小学校

五年 海野 功生
五年 角田偉知郎
五年 阿曾 至

須賀川市立阿武隈小学校

五年 橋本 紗良
六年 西槇 美琴
六年 吉川 陽向

白河市立白河第五小学校

四年 鈴木 煌采

棚倉町立近津小学校

四年 金澤 音々
四年 平塚 玲彩

相馬市立日立木小学校

一年 池部 綾人
一年 臺内 葵
四年 臺内 琉華
六年 臺内 李紗

郡山市立富田東小学校

一年 千葉みのり
二年 菅原 愛央
三年 安部 未桜
三年 柳沼 楓
三年 伊藤 柚乃
三年 松木 結唯
四年 鈴木 葵子
四年 荒川 琉穂
四年 渡邊 碧紀
四年 岡田有紀菜
五年 大槻 惺
五年 増子 花梨
五年 熊谷 詩音
五年 高橋 陸玖
五年 國分 琉
五年 久保 陽

須賀川市立柏城小学校

四年 馬場 栞太
四年 想田 丈琉
四年 竹田 悠雅

鏡石町立第一小学校

六年 酒井 宰

玉川村立玉川第一小学校

三年 須藤 花歩
三年 須藤 和真
六年 鈴木 優
六年 熊田 陽向
六年 車田明日香
六年 須藤 恋彩

相馬市立中村第二小学校

五年 大槻真奈美
六年 木幡優樹菜

相馬市立飯豊小学校

一年 鈴木 洋香
一年 野沢 陽翔
一年 杉本琥太郎
四年 福島 恋花
四年 佐藤 莉杏
六年 村田 美空

福島市立福島第一中学校

一年 渡邊 花菜
一年 高橋 司馬
二年 佐藤 結衣
二年 佐藤早侑美
三年 中濱 佑月

須賀川市立第三中学校

三年 大平 実佑

玉川村立玉川中学校

一年 曲山 陽菜

学校法人国際学園星槎国際高等学校郡山学習センター

一年 斎藤 千陽

須賀川市立稲田小学校

五年 戸賀 翔琉

平田村立蓬田小学校

五年 星 柚那

一〇〇文字提案

「わたしにできるボランティア」



「わたしにできる
ボランティア」

優秀賞

福島市立福島第一小学校

六年 小島 志織

玉川村立玉川第一小学校

六年 村越 里菜

相馬市立飯豊小学校

一年 遠藤 心湖



「わたしにできるボランティア」優秀賞

福島市立福島第一小学校 六年 小島 志織

私は毎週火曜日の朝に奉仕活動をして
いる。

子供を保育園に送るお母さん。

会社に行く人たち。

たくさんの人に私たちは笑顔とあいさ

つのエールを届ける。

それが私にできるちいさなボランティ

ア。

玉川村立玉川第一小学校 六年 村越 里菜

私はボランティア活動をすると笑顔に
なれる。達成感が味わえるからだ。心も
すっきりする。

大人になったらボランティア活動に積

極的に参加したい。学校でやっているボ

ランティア活動は、その第一歩。

大切にしたい。

相馬市立飯豊小学校 一年 遠藤 心湖

みちがないている。

ところどころにごみがおちているから

「ごめんね。」

とおもう。きれいなみちをつくるため、

きづいたらひろうことにしたい。みちが

えがおになれるように。

わたしはがんばりたい。



「わたしにできる ボランティア」

佳作

福島市立福島第一小学校

四年 二木こなみ

郡山市立片平小学校

六年 影山 紗葵

郡山市立薫小学校

四年 山口 翔乎

郡山市立富田東小学校

二年 高橋 悠人

三年 吉田 凌月

四年 三本菅杏南

四年 松本 龍祥

五年 笹山莉衣奈

五年 久保 翔

須賀川市立稲田小学校

五年 添田 波音

須賀川市立阿武隈小学校

五年 羽田 夢香

須賀川市立柏城小学校

四年 山寺 初佳

玉川村立玉川第一小学校

六年 大平 瑛太

平田村立蓬田小学校

五年 笠巻 哉太

白河市立白河第五小学校

一年 本宮 莉桜

矢祭町立矢祭小学校

四年 佐藤 心結

新地町立駒ヶ嶺小学校

五年 寺島 彩夏

相馬市立中村第二小学校

六年 阿部 瑞樹

六年 高力 和蓮

相馬市立飯豊小学校

一年 佐々木秀吾

相馬市立磯部小学校

四年 伊藤 慶人

南相馬市立八沢小学校

六年 鈴木 奎寿

福島市立福島第一中学校

一年 佐藤 夏樹

一年 高橋 愛夏

二年 大和田晟史

須賀川市立第三中学校

二年 海村 瑠依

二年 松谷 恵那

二年 今野 咲幸

三年 菅野まふゆ

玉川村立玉川中学校

二年 有賀きらり

学校法人昌平豊東日本国際大学附属昌平中学校

二年 佐藤 朱莉

福島県立福島北高等学校

一年 井塚 美優

『わたしにできるボランティア』佳作

福島市立福島第一小学校 四年 二木こなみ

わたしにできるボランティアは、一円玉ぼ金をがんばることです。たった一円でも、たくさん集めれば、すごい数になると思っているの、わたしにできるボランティアは、一円玉ぼ金だと、わたしは思っています。

郡山市立薫小学校 四年 山口 翔乎

私には、楽しくできるボランティアがある。人を語りでえ顔にすること。私は、語りを習っている。いろんな人の前で語った。聞いた人がえ顔になると、とてもうれしい。コロナに勝ったら、みんなのえ顔に会いたいな。

郡山市立片平小学校 六年 影山 紗葵

郡山市立富田東小学校 二年 高橋 悠人

へアドネーション
だれかのために
役に立つ
私の髪が役に立つ
だれでもできる
ボランティア
何度でもできる
ボランティア
男でも女でも
かまわない

ぼくは、二年生になりました。学校のかえりに、一年生が一人であるいているので、いっしょにかえています。いえまできとおいし、まい日あついから、一年生はゆっくりしかあるけません。ぼくもゆっくりあります。

郡山市立富田東小学校 三年 吉田 凌月

ぼくは、年に一回地いきのごみひろいにさんかする。朝早くから、道ろや、うえこみ、歩道におちているごみをひろいながら歩く。いろいろごみをすてる人がいてちよつとかなしいけど、おわると町がちよつとすきになる。

郡山市立富田東小学校 四年 松本 龍祥

阿波踊りを三才からはじめ年に、数回老人ホームにいもんに行っています。踊りが終わると、おじいちゃん、おばあちゃん達が「ありがとう」の思いのこもったすてきな笑顔。ぼくも成長しもっと笑顔のプレゼントをします。

郡山市立富田東小学校 四年 三本菅杏南

わたしは、お出かけの時、よく、ぼきんの箱を見るよ。そこで五円のお金をはじめて入れた。心のどこかが温かかったよ。この五円でも人の役に立ったからだよ。
地球の人と友達に、なれたかも。

郡山市立富田東小学校 五年 笹山莉衣奈

私は、小さいころから動物が大好きで、動物保護をする活動をしてきました。人間も動物も一つの命なのに簡単に動物をすてたりする人間がいることがとても悲しいので、私は命を大切にしていく活動を続けていきたいです。

郡山市立富田東小学校 五年 久保 翔

コロナウイルスで小学校が休みの時に、友達と家の周りのゴミ拾いをした。三十分で大きなゴミぶくろがいっぱいになった。ぼくの体からはいっぱいあせが出たけれど、とてもすがすがしい気持ちになった。

須賀川市立阿武隈小学校 五年 羽田 夢香

私の学校では、ベルマークを集めています。そのベルマークで学校の備品を購入したり、国内外の教育支援に使ったりしています。ベルマークの向こう側にある笑顔を思い浮かべながら、今日もハサミで切り取ります。

須賀川市立稲田小学校 五年 添田 波音

私は、家族から「いいかみだね。」と言われています。

その髪が人のやくにたつのです。

私は、考えました。

そして決めました。

病気で髪を失ってしまった子たちに、私の髪をヘアドネーションすること。

須賀川市立柏城小学校 四年 山寺 初佳

私は今、かみの毛をのばしています。ヘアドネーションをするためです。病気でかみの毛をうしなった子どもたちにカツラを作るためです。わたしのかみの毛で、少しでも子ども達がい顔になったらとねがいます。

玉川村立玉川第一小学校 六年 大平 瑛太

ぼくは、一日一回必ず学校の手伝いをするよう心がけています。最近、花だんや刈った草の片付けをしています。奉仕活動を毎日続けて、身の回りだけでなく自分もスッキリします。これからも、毎日続けていきたいです。

白河市立白河第五小学校 一年 本宮 莉桜

おうだんはどうで、おじいちゃん、おばあちゃんがいたら、てをつないでいっしょにわたってあげる。おとしものをして、きづかないひとがいたら、わたしがひろってわたしてあげる。しんせつにしよう。

平田村立蓬田小学校 五年 笠巻 哉太

ちょっとしたてつだいをしたら百円をもらった。その百円でおかしを買った。九十八円だったのこりの二円を募金箱に入れた。そしたら店員さんが「ありがとうございます。」とってくれた。少しいいことをした気分だ。

矢祭町立矢祭小学校 四年 佐藤 心結

私は、このきれいな矢祭町の緑を守りたいです。なので週に二〜三回自転車でさんぽをします。ゴミがおちていたら自転車のかごにゴミをひろい、かごでもって帰ります。少しずつだけど、この矢祭町の自ぜんをまもりたいです。

新地町立駒ヶ嶺小学校 五年 寺島 彩夏

私は時間が空いているときは、自転車のかごにゴミぶくろとぐんてを入れてゴミ拾いをします。最近は雨や天気が悪くて、なかなかゴミ拾いに行けません。
私の家の近くに、コンビニがあつて、そのゴミが落ちているので毎日できるようにがんばりたいです。

相馬市立中村第二小学校 六年 高力 和蓮

三年前、祖母に連れられた初めてのゴミ拾いのボランティア。初めはやる気が出なかったけれど、他の人の必死さに私もつけられて一生けん命がんばれた。
きれいになった海を見て、とても心が温まった。

相馬市立中村第二小学校 六年 阿部 瑞樹

今、九州南部が豪雨で苦しんでいる。
是非、応援に行きたい。
でも、コロナが流行しているから、それはできない。
ならどうしよう。
ああ、そうか。
心で応援すればいいんだ。
体だけではない、心も支援には大切なんだ。

相馬市立飯豊小学校 一年 佐々木秀吾

おてっだい
うみのごみひろい
いしとか きのだ
おかしのふくろ
だれがすてたのかな
いっぱいひろったよ
きれいなうみで
たくさん
およぎたいな

相馬市立磯部小学校 四年 伊藤 慶人

ぼくにできるボランティアは、ゴミ拾いです。朝五時から五時三十分まで地いきの人といそべを、歩いてゴミ拾いをします。自分の手でいそべをきれいにできてうれしいです。これからもつづけていきます。

福島市立福島第一中学校 一年 佐藤 夏樹

ぼくのおばあちゃんは、手や手首がはれてすごく痛くなる病気です。おばあちゃんの庭の手入れや畑の野菜をとったり、草むしりを手伝ったり時どき休みの日に行っています。これがぼくに今できるボランティアです。

南相馬市立八沢小学校 六年 鈴木 奎寿

ぼくの家の下
バスに乗るときに
チラリと見えるゴミの道
どうしてもゆるせなくなる
海水浴場を清掃したときに
ゴミが多くてガッカリした
たくさん取ったけど減らない
クリーン活動を続けて
ゴミのない町にしたい

福島市立福島第一中学校 一年 高橋 愛夏

私は去年、委員会で町中募金に行きました。
募金をしてくださった方々が
「がんばってね。」
などと笑顔でとてもあたたかい言葉をかけてくださり、私たちの心もとてもあたたかくなるのを感じました。

福島市立福島第一中学校 二年 大和田晟史

「台風十九号」

令和元年十月、大規模な台風で隣町が水没。

僕にできる事は何だろうか。

翌週、ボランティアに参加した。帰り際、家の人からありがとうと言われた。僕の方が励まされた気がした。

須賀川市立第三中学校 二年 松谷 恵那

私は去年、地域のボランティアに参加した。

初めは緊張したが、友達と声をかけ合うことでやりとげられた。

地域の方々の笑顔、スタッフさんの感謝の言葉に、私は大きな達成感と人を笑顔にする喜びを改めて知った。

須賀川市立第三中学校 二年 海村 瑠依

私は、町内の草かりのボランティアに毎回参加しています。

いつもお世話になっている近所の人や、町内の人のために少しでも役に立てればいいなと思いました。小さなことでも、少しずつやっていけるといいと思います。

須賀川市立第三中学校 二年 今野 咲幸

私は部活動で競技かるたをしている。私はそれを生かして、交流センターのイベントのボランティアをした。参加した人達は笑顔で「楽しかった。」と言ってくれた。とても嬉しかった。私は自分の特技で町を元気にしたい。

須賀川市立第三中学校 三年 菅野まふゆ

私は一年から髪をのばしています。理由はヘアドネーションをするからです。私は中学校を卒業したら髪を寄付するつもりです。一度短くなってもまたのばし、また寄付して沢山の方に笑顔でいてほしいです。

玉川村立玉川中学校 二年 有賀きらり

「愛の反対は憎しみじゃない。無関心だ。」
マザーテレサはそう言った。私は愛に触れる時、いつもこのことを考える。「ボランティア」つまり、奉仕。奉仕は愛に繋がると思う。私の知らない所で苦しむ人達に、私の注げる愛は、社会の陰に関心を持つことである。

学校法人昌平豊東日本国際大学附属昌平中学校 二年 佐藤 朱莉

私は、老人ホームの方々の健康を祈って花紙で「アマビエ」を作りました。作業はとても大変でしたが、完成した時は花の一つ一つがきれいでした。このアマビエで多くの方々が健康でいられますようにと祈りました。

福島県立福島北高等学校 一年 井塚 美優

普通の生活はあたりまえじゃない
世界中のどこかで
頑張っている人
世界中のどこかで
辛い思いをしている人
そんな人に協力したい
そんな人を助きたい
最初はね
小さなことからでも

「わたしにできるボランティア」入選 受賞者

福島市立福島第一小学校

三年 田村 優磨
三年 菊田 瑛音

郡山市立片平小学校

四年 國分 心晴

郡山市立薫小学校

二年 佐藤 芽依
四年 澤井 咲奈

郡山市立富田東小学校

三年 菅野 芽生
三年 小松 彩
四年 星 涼雅
四年 目黒なつみ
五年 葛西 貴大
六年 黒田 修椰
六年 宮川 稟理

須賀川市立阿武隈小学校

五年 佐藤 璃音
六年 安藤 史織
六年 熊田 一花
六年 佐久間 柚
六年 秋山 亜子

玉川村立玉川第一小学校

四年 鈴木 凜
四年 根本 未玖
五年 安藤 眞白
五年 渡辺奈々子
六年 熊田 蒼
六年 遠藤恵里佳

平田村立蓬田小学校

二年 先崎 海斗

棚倉町立近津小学校

四年 藤田華乃愛

矢祭町立矢祭小学校

五年 森本 真斗
六年 武石 和希

喜多方市立駒形小学校

六年 斎藤 愛恵

南会津町立松沢小学校

三年 星 綾香
六年 星 柚希

新地町立駒ヶ嶺小学校

五年 八巻 東真
六年 牛渡こはる

相馬市立中村第二小学校

五年 菊地 悠月
六年 土屋 陽愛

相馬市立飯豊小学校

一年 坂本 愛莉
二年 折笠 汰駕
四年 板垣 彪

相馬市立磯部小学校

一年 伊藤 大賀

相馬市立日立木小学校

一年 荒 栞里

福島市立福島第一中学校

一年 藤田 望
一年 渡邊 快湊
一年 菅野 礼音
一年 片野 澄空
二年 三浦 大河
二年 菅野 雄太
二年 宮島 心花
二年 川上 陸斗
二年 野地 美登

須賀川市立第三中学校

二年 佐藤羽奈乃
二年 安田 奈那
二年 吉田 智哉
三年 小沢 駿介
三年 廣田 勝雅

玉川村立玉川中学校

二年 影山 梨愛
二年 馬上 大陸
二年 木戸 玖遠

いわき市立四倉中学校

一年 小野 美稀

学校法人昌平学園日本国際大学附属昌平中学校

二年 栗田 葵衣

福島県立福島北高等学校

二年 齋藤 優季

学校法人松韻学園福島高等学校

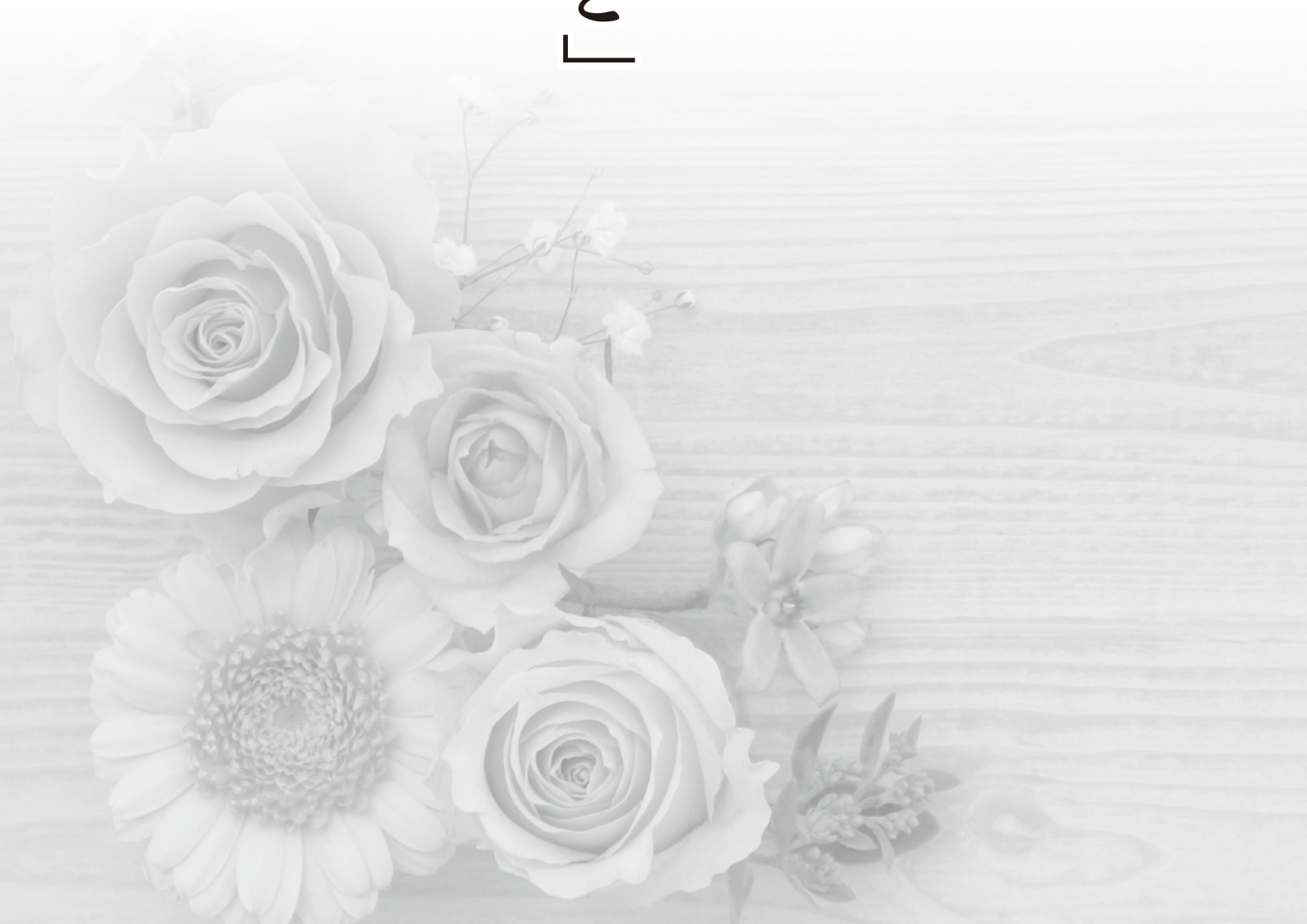
一年 渡辺 麻矢
二年 佐久間理奈

学校法人昌平学園日本国際大学附属昌平高等学校

二年 大友 心優

100文字提案

「わたしのふるさと」



「わたしの
ふるさと」

優秀賞

郡山市立富田東小学校

四年 遠藤しのぶ

福島市立福島第一中学校

二年 菊地 佑菜

学校法人福島成蹊学園福島成蹊高等学校

二年 大内 花菜



「わたしのふるさと」優秀賞

郡山市立富田東小学校 四年 遠藤しのぶ

私のふるさとかから、安達太良山が見える。雨の日も雪の日も変わらない姿は美しく、私の心を勇気づける。どんな困なんにも負けるなど。百年後の未来の誰かにも届けたい、この風景を。

福島市立福島第一中学校 二年 菊地 佑菜

「だべした」何度この言葉を聞いただらうか。北海道出身の母に育てられた私に福島弁は外国語のようだ。でも聞いていて心地がよく温かくなる。これが福島なんだ。私のふるさとだ。何度でも言おう。私のふるさととは福島だ。

学校法人福島成蹊学園福島成蹊高等学校 二年

大内 花菜

朝目覚めて、窓を開けると自然の良い
香りがする。近くではじいちゃん達の笑
い声が聞こえる。朝食には朝とれた野菜
や家でしぼった牛乳、じいちゃん達が作
ったお米が並んでいる。こんなド田舎の
生活が私は大好きだ。



「わたしの
ふるさと」

佳
作

福島市立福島第一小学校

一年 渡辺 亜郎
六年 赤間 玄

郡山市立富田東小学校

一年 狗飼 大和
五年 江口 凌生

玉川村立玉川第一小学校

三年 小木 舜士

猪苗代町立緑小学校

三年 佐藤 善仁
五年 佐藤 心結
五年 村澤 心都

南会津町立松沢小学校

五年 吉田 ななみ
六年 星 颯

新地町立駒ヶ嶺小学校

四年 後藤 穂美
四年 猪狩 和真

相馬市立中村第二小学校

五年 齋藤 輝
五年 笠松 優香

相馬市立飯豊小学校

一年 高玉琥羽冴
三年 杉本 結月
六年 杉本 蘭奈

福島市立福島第一中学校

一年 二瓶 吾妻
一年 井上 結愛
一年 秋山 悠乃
二年 赤間 俊希
二年 清水 埜亜
三年 菅野 彩奈

須賀川市立第三中学校

三年 芳賀 優心



『わたしのふるさと』佳作

福島市立福島第一小学校 一年 渡辺 亜郎

山がいっぱいある。
川もいっぱいある。

キノコもいっぱいある。しぜんに生えてくる。しぜんの力は
すごいな。どこにそんな力があるのかな。

ぼくにもそんな力があるのかな。何につかおうかな。

郡山市立富田東小学校 一年 狗飼 大和

がっこうへいくみち、
まいにちとおくてつかれちゃう。

こうこうせいのおねえちゃんがむかえにきて
「このみちあるくのなつかしいな。やまともいつかなつかしい
とおもえるようにがんばってがっこういきなね。」とわらったよ。

福島市立福島第一小学校 六年 赤間 玄

ぼくの福島は輝いている。

猪苗代湖が輝き、

吾妻山の星空が輝き、

鶴ヶ城の赤瓦が輝く。

そして、みんなの笑顔が輝く。

ぼくも、この福島で輝ける人になりたい。

今日も、福島は輝いている。

郡山市立富田東小学校 五年 江口 凌生

ぼくのふるさとは

やさしい人が

いっぱいいるよ

自然が豊かで

おいしい物が沢山ある

みんな笑顔で

仲良く助け合っている

大好きなふるさと福島

ぼくはこれから

福島の力になりたい

玉川村立玉川第一小学校 三年 小木 舜士

ぼくのふるさと玉川村
水も空気もおいしいよ
春はきれいにさくらがさいて
夏はひぐらし大合唱
秋はバッタとどびはねて
冬は楽しく雪がっせん
家族大すき友達大すき
みんなにこにこ玉川村

猪苗代町立緑小学校 三年 佐藤 善仁

ぼくのふるさと、
一面田んぼ、
にわ、畑、
大きな魚
ふな、こいがいる。
秋は、もみがらやきで、
こげくさい。
そんなぼくのふるさとが好きだ。

猪苗代町立緑小学校 五年 佐藤 心結

私のふるさとは猪苗代。
美しい山と湖に囲まれた村で育った。
春には桜。
夏には湖水浴。
秋にはいもに。
冬には雪遊び。
この春夏秋冬がある私の大好きな、猪苗代。
この大自然で育ったこと、
これからもほこりに思うふるさと。

猪苗代町立緑小学校 五年 村澤 心都

私の横笛。
たくさんの人をしせん。
一歩一歩を意識して、
たくさんの方の前へ
どんどん進む。
始まりの声。
なり響く太鼓の音。
さあ今だ。
横笛に、心をこめて、
響かせろ。

南会津町立松沢小学校 五年 吉田ななみ

下校道、辺りを見回すと、やさしい緑。
緑の中には、すき通った水。
水の中には、小さな魚やカニ。
耳をすますと、小鳥の鳴き声。
そんなふるさとで気づく落ちついた自分の心。
私のふるさととは、ゆたかな自然がたくさん。

南会津町立松沢小学校 六年 星 颯

いつも聞こえる音がある。災害で氾らんした松沢川の工事の音だ。
ぼくはその音とともに、今日もソフトの練習をがんばる。
福島のために雨の日も風の日もがんばる人達がいると思うと、胸が熱くなる。
ぼくも負けていられない。ボールを追う足がいつもより速くなる。

新地町立駒ヶ嶺小学校 四年 後藤 穂美

わたしのお父さんは、米づくりをしています。秋になって、いねが黄金色にぴかぴか光ってとてもきれいです。わたしの名前の「穂」は、いねの穂を表しているとおばあちゃんから聞きました。大切にしたいなあと思いました。

新地町立駒ヶ嶺小学校 四年 猪狩 和眞

新地町のかろう山からのながめは最高だ。
てっぺんからは、町全体がよく見える。
晴れた日には、太平洋の海が光って見える。
広い田んぼが季節ごとに、色を変え、
まるで絵を見ているようだ。
ぼくの自まんの山だ。

相馬市立中村第二小学校 五年 齋藤 輝

ヒラメ、カレイ、イカ、タコ、スズキ、シラス、アサリ、青のり。

ぼくのすきな魚。

相馬の魚。

今日も父は、

しけんそうぎょうへ船を出す。

相馬市立飯豊小学校 一年 高玉琥羽牙

ぼくは、じてんしゃにのって、たんぼのみちをビューンとこぐときもちがいい。

とんぼがいた。

かえるもいた。

せみのなきごえがきこえる。

ぼくのふるさとは、

たのしいことがいっぱいだ。

相馬市立中村第二小学校 五年 笠松 優香

震災で何もかもなくなった

おいしい魚もとれない

あれから十年

もう海で泳げるよ

家もどんどん増えたよ

魚も沢山食べれるよ

大きい公園もできたよ

やっぱり私はこの町が

大好きだ

相馬市立飯豊小学校 三年 杉本 結月

「ヒラヒラ」

春にはちやうが空をまいます。

「ミーンミーン」

夏にはセミが歌います。

「ユラユラ」

秋にはトンボがタヤけに帰ります。

「スヤスヤ」

冬は生き物たちのねいきが聞こえてきそう。

今日も福島の生き物は元気です。

相馬市立飯豊小学校 六年 杉本 蘭奈

いつも学校や外で、
いやな事があっても、
うちに帰ると、
毎日ふつうに
ご飯を食べたり、
話しをしたり、
おだやかな気持ちになる。これが私のふるさとになるのかな。
私だけの大切なふるさと。

福島市立福島第一中学校 一年 二瓶 吾妻

たくさん命が消え、
悲しみだけが残った震災、原発事故。
ぼろぼろになって一度壊れた福島。
だが僕のふるさとはよみがえった。
まだ僕が幼かったあの頃のように。
転んでもまた起き上がる。
その勇気をふるさとがくれた。

福島市立福島第一中学校 一年 井上 結愛

夏の暑い夜、空を見上げた。言葉を失うほどキレイな星、こんなにキレイな星空を私は見た事がない。
「コロナでどこにも行けなくてごめんね。」
とお母さんが言ったけど、そんな事はない。あのきれいな星空は福島でしか見る事ができないのだから。

福島市立福島第一中学校 一年 秋山 悠乃

私の祖父母は原発事故で古里を失った。
菜の花の絨毯。
蛍と満天の星。
もも色のコスモス。
祖父母の古里を奪った原発事故。その記憶を語りついでいくのが私たちの役割だ。

福島市立福島第一中学校 二年 赤間 俊希

「ふるさと」それはみんなの心の中にある。

その景色、人情、自然。

それはみんなの共有物。

一人一人が創り上げてゆくふるさと。

「いつでも帰っておいで。」

そう手招きするようにふるさとはいつも待っている。

誰かの帰りを待っている。

福島市立福島第一中学校 三年 菅野 彩奈

震災から変わらぬ空。

花見山にも

四季折々の花が咲く。

春、桜の花が色づき、

夏、虫たちの声。

秋、銀杏の葉の絨毯、

冬、吾妻山の雪うさぎ。

当たり前の風情を

感じる日々に感謝。

福島市立福島第一中学校 二年 清水 埜亜

毎日私は、下校する時に荒川の河川敷を通る。部活で疲れて

も、テストでうまくいかなかったても、そこを歩けば、夕焼けが広

がる空や大きくきれいな荒川が心を落ち着かせてくれる。私の

大切なふるさとだ。

須賀川市立第三中学校 三年 芳賀 優心

今日は暑いねえ。と私が言う。すると

「きゅうり持った？」

と母が玄関から大声でいう。私は急いで玄関に向かった。

「あ、合羽忘れた。」

とまた急いで戻る。なんで合羽かって？だってきゅうり天王祭だもん。

『わたしのふるさと』入選 受賞者

福島市立福島第一小学校

三年 佐藤 大泰

矢祭町立矢祭小学校

五年 齋藤 衣咲

六年 藤田野乃実

相馬市立磯部小学校

六年 渡邊 梨花

六年 村岡明日空

須賀川市立第三中学校

三年 水山 茉優

三年 浅倉 理斗

郡山市立富田東小学校

二年 星野あすか

三年 加藤 愛奈

三年 阿部 美空

六年 吉田 紗雪

六年 上村 唯斗

六年 安達 結愛

六年 菊地 光瑠

猪苗代町立緑小学校

五年 高橋 琉佳

五年 小檜山悠翔

相馬市立日立木小学校

三年 池部 結人

六年 前川あきな

南会津町立松沢小学校

三年 星 辰巳

双葉町立双葉北小学校

六年 野村 花音

榎葉町立榎葉中学校

三年 山本 恵来

三年 吉田百々花

郡山市立富田西小学校

六年 小平 和樹

相馬市立中村第二小学校

四年 四栗 鳳雅

五年 紺野 陽愛

六年 佐藤 優里

福島市立福島第一中学校

一年 國分 心

一年 月井あかり

二年 森口 夢菜

二年 橋本 留以

二年 大門 悠貴

二年 神山 鈴乃

二年 齋藤 和志

三年 松本 実桜

三年 小倉 璃央

学校法人福島成蹊学園福島成蹊高等学校

三年 鈴木凜々子

須賀川市立稲田小学校

五年 野地 徠斗

六年 柏原 成希

相馬市立飯豊小学校

一年 日那田楓真

二年 島 美誓

二年 森 有紗

三年 佐藤 静波

四年 高玉凌寿慶

四年 佐藤 祐河

四年 寺島 隼矢

須賀川市立柏城小学校

四年 渡邊なのは

石川町立野木沢小学校

二年 黒澤 結衣

一〇〇文字提案

「わたしが感動したことばやできごと」



「わたしが感動した
ことばやできごと」

優秀賞

福島市立福島第一小学校

三年 清野 陽菜

六年 片平一之介

郡山市立富田東小学校

六年 吉田 侑加

福島市立福島第一中学校

一年 渡邊凜太郎



『わたしが感動したことばやできごと』優秀賞

福島市立福島第一小学校 三年 清野 陽菜

コロナに立ち向かっている医りようの人達をテレビでみた。この人達にも大切なだれかがいるだろう。そばにいたい気持ちもあるだろう。一つしかない命はそれの人達も同じなのに。笑顔でがんばる姿に心がふるえた。

福島市立福島第一小学校 六年 片平一之介

九十五歳で天国にいったひいおばあちゃん。たくさんのお苦労や困難を乗り越えて、最後の最期まで全力で生きた。「ばあちゃんいつも応援してるから。」僕的心中に残してくれた励ましの言葉を大切にしていきたい。

郡山市立富田東小学校 六年 吉田 侑加

玄関先に鳥のひなが落ちていた。毎日
世話をしていると手からえさを食べ肩に
のぼってきた。少しして、自分でとべる
ようになったので、外に放してあげた。
楽しそうに空を飛び回った。うれしいけ
どさみしかった。

福島市立福島第一中学校 一年 渡邊凜太郎

僕の親せきは、去年の水害で被災した。
水が引いたその時から、父は長ぐつを
履きタオルを首にかけ、泥だらけになり
ながら、黙々と片付けを手伝った。当た
り前の様に誰かのために行動する父に、
僕は感動した。

「わたしが感動した
ことばやできごと」

佳
作

福島市立福島第一小学校

一年 落合 涼士
三年 大竹 和武

郡山市立富田東小学校

二年 三浦 朱音
三年 吉田 果歩
五年 大竹陽日季
六年 枝並 克幸
六年 渡邊羽香南

須賀川市立稲田小学校

五年 常松 柊汰

須賀川市立阿武隈小学校

二年 渡辺 愛蓮
二年 正木 蒼士

須賀川市立柏城小学校

四年 立石 優奈
四年 栗城 侑空

白河市立白河第五小学校

一年 高橋 凜
一年 真藤 透也
二年 佐藤 沙妃

福島市立福島第一中学校

一年 島貫 晴翔
一年 遠藤 佑真
一年 穂積 蒼空
二年 小池 彩華

須賀川市立第三中学校

二年 野沢 嶺
三年 海村 花恋

玉川村立玉川中学校

一年 森 優清
二年 湯澤 心菜

学校法人松韻学園福島高等学校

二年 渡邊こころな



『わたしが感動したことばやできごと』佳作

福島市立福島第一小学校 一年 落合 涼士

ぼくはさいきんくびをけがした。くらすのみんなが、かばんをもってくれたりこくごがおくれたぶんをおしえてくれた。くびはなおったけど、つぎにこまっているおともだちがいたら、こんどはぼくがたすけるばん。

福島市立福島第一小学校 三年 大竹 和武

母がアイロンをかけていました。「みんなやっていることなの。」と聞くと、「アイロンには、しょうどくの意味もあるし、いつもきれいでいてほしいのよ。」と言いました。ぼくが生まれてからずっとです。感動です。

郡山市立富田東小学校 二年 三浦 朱音

入学しきの日。わたしの前のせきの女の子がこえをかけてくれた。いつのまにかともだちになった。

ドキドキしていた入学しきがウキウキにかわった。うれしかった。

二年生になったいまも大すきなともだちだ。

郡山市立富田東小学校 三年 吉田 果歩

わたしがすきなことば

ごめんね

おはよう

でもね一番すきなのは

ありがとう

ありがとうって言われるとあたたかい気持ちになる

でもてれくさい

だけどうれしいな

郡山市立富田東小学校 五年 大竹陽日季

私は四年のころ、いじめられていた。その日から教室にはいかず、先生達のいる所で勉強していた。そしたら校長先生が、「もっと、頼ってくれていいんだよ。」と言ってくれた。今は教室にいらるけれど、あの言葉はわすれない。

郡山市立富田東小学校 六年 渡邊羽香南

私は、サラダを作ったり、自分と弟の上ばき洗いをしたりしています。おこづかいがほしいから、ほめられたいから、たくさんたくさん理由があるけど、一番の理由は、がんばってお手伝いをする、私に気付いてほしいから。

郡山市立富田東小学校 六年 枝並 克幸

「アンリー・デュナン」

毎年、全校集会で聞いている、人の名前。

「だれだろう？」

って思っていたけれど、今年は集会委員だから調べてみたよ。

命を大事にした人なんだね。今度は、ぼくが伝える番だ!!

須賀川市立稲田小学校 五年 常松 柊汰

「努力はうらぎらない」この言葉は多くの胸にじーんとひびく。できなかった鉄棒も、難しい漢字の練習も、めんどくさいわり算も、がんばるうちにできるようになった。全部ぼくの力になった。だからこれからも努力しよう。

須賀川市立阿武隈小学校 二年 渡辺 愛蓮

てん校してはじめての教室、あたらしい友だち、ドキドキしてしんぞうがとび出しそうだった。そんなとき、

「友だちになろう。」

うたさんの一言でドキドキがとまった。とてもうれしかったよ。ありがとう。

須賀川市立柏城小学校 四年 立石 優奈

コロナウイルスが広がったらどうなってしまうのか不安でいっぱいだった時に、空一面に広がる花火を見ました。今たくさんの人がその病気と戦っていると思うと勇気が出ました。

次はバンザイの花火になってほしいです。

須賀川市立阿武隈小学校 二年 正木 蒼士

ぼくが学校から帰ると、いつもおばあちゃんがえがおで、

「おかえりー。」

とぼくをむかえてくれる。その声を聞くと、ホッとしてぼくも大きな声で

「ただいまー。」

とえがおになれる。

須賀川市立柏城小学校 四年 栗城 侑空

ぼくには、妹がいます。

妹やぼくが生まれた時の話をお母さんに聞きました。その時「自分より大切な物ができた。」

という言葉に感動しました。それは、ぼくたちを大切に思っていることを知ったからです。

白河市立白河第五小学校 一年 高橋 凜

わたしとあんちゃんは、なかよしのふたご。

ママのおなかのなかで、あんちゃんとじゃんけんぽん。

いまでも、なかよくじゃんけんぽん。

おばあちゃんになっても、

なかよくいっしょにじゃんけんぽんしようね、あんちゃん。

白河市立白河第五小学校 二年 佐藤 沙妃

今日の日を楽しもう！

せい一ぱい

あすの日も楽しみが

目一ぱい

もう少しぼくらのぼうけんはつづく

人生は長いようで見じかいから一生けんめい生きて、ぼくがいたあかしにするんだ！

白河市立白河第五小学校 一年 真藤 透也

ママが、ぼくのことを、たいせつなたからものといった。お

とうとのたいりとかさも、ママのたからものなんだって。た

からものをたくさんもっているママは、しあわせといった。ぼ

くも、しあわせといってあげた。

福島市立福島第一中学校 一年 島貫 晴翔

ぼくは野球部。

練習は辛い。

だけど僕には夢がある。

光り輝く背中。

それは、先輩が付けた背番号。

どんな苦しい練習でも、背番号を付け試合に出たい。

一球に想いを込める。

福島市立福島第一中学校 一年 遠藤 佑真

僕の担任の先生が言っていた言葉です。

「友達を悪い人にしないでください」

この言葉を聞き共感しました。自分が注意すれば、友達は悪い人にはならない。これを意識して生活すれば、よりよい学校になります。

福島市立福島第一中学校 二年 小池 彩華

「とにかく自信をもってやってみるのが大事だよ。」

この一言で変わった。こんなネガティブな私でも自信をもつてやればできるんだ。少し自分が好きになった。

この言葉は私の胸に深く刻まれている。

福島市立福島第一中学校 一年 穂積 蒼空

感動したこと

ぼくは、夏休みの宿題で料理を作っていた。

料理を作って、食べたらおいしかったが、たいへんさも身に染みてわかった。母は、こんなこともやっているのかと思うと感謝で心がいっぱいになった。

須賀川市立第三中学校 二年 野沢 嶺

姉と兄も揃って祖母の顔を見に行った日。ぼく達の顔がわかった。写真を見ながら思い出話をした。

「しぬほどうれしい。」

と、泣き声で一度だけ言った。

いつも大げさに話す祖母。だから、みんなで笑ったあの日。会いたいな。

須賀川市立第三中学校 三年 海村 花恋

「空を見上げてごらん。

青空だよ。青信号だよ。

前に進めるよ。進もう。」

私が落ち込んでいるときに友達がかけてくれた言葉。

この言葉のおかげで前に進めた。

落ち込んでいたら赤になってしまう。

青のうちに進む。私はそう決めた。

玉川村立玉川中学校 一年 森 優清

「手伝いますか。」

ぼくは苦しそうなおばあさんに声をかけた。

「おねがいね。」

おばあさんは、手に持っていた荷物をぼくにわたした。

ぼくもおばあさんもとってうれしかった。それが人間というものなんだな。

玉川村立玉川中学校 二年 湯澤 心葉

普段あまり話さない友達と感情のこもった会話ができるようになった。一つの授業で接点ができて、話すことが多くなった。人との会話は自分から話さないと始まらない。そして、感情のこもっている会話は、人の友情を、大きく広げてくれることを知った。

学校法人松韻学園福島高等学校 二年 渡邊ここな

「悲しいことも嬉しいことも長くは続かないんだよ。必ず終わりが来るよ。今辛くても一生は続かない、幸せな時はその幸せに感謝しよう。」母のこのことばに励まされたからどんなに辛くても笑顔を忘れずここまで来たんだ。

「わたしが感動したことばやできごと」 入選 受賞者

福島市立福島第一小学校

五年 加藤 愛莉

郡山市立薫小学校

五年 渡部 ふう

郡山市立富田東小学校

二年 岡部愛佑美

三年 和気 凜太

三年 有我 花梨

四年 二瓶 颯介

四年 林 咲空

五年 我妻 佑哉

五年 松下 優衣

五年 遠藤 有晃

五年 伊藤 歩

六年 斎藤 夏輝

六年 吉田ひより

須賀川市立稲田小学校

六年 武田賢士郎

須賀川市立阿武隈小学校

二年 矢吹 丈

二年 矢吹 脩

二年 西間木七希

須賀川市立柏城小学校

四年 小針 杏暖

天栄村立大里小学校

六年 添田 美優

白河市立白河第五小学校

一年 清川 愛斗

新地町立駒ヶ嶺小学校

四年 武田 元汰

四年 八巻由稀南

相馬市立中村第二小学校

五年 大和崎健心

六年 根津明日香

相馬市立飯豊小学校

一年 但野 航希

相馬市立磯部小学校

一年 佐々木希空

相馬市立日立木小学校

二年 菊池 花菜

二年 塙 翼

南相馬市立八沢小学校

六年 大井理央奈

福島市立福島第一中学校

一年 斎藤 梨摘

一年 菅野 美羽

一年 池田 志楠

一年 高木 咲良

二年 霜山 春翔

二年 富樫歩実果

二年 佐久間野安

二年 鈴木 優奈

二年 遠藤 心彩

二年 伊藤 琉羽

須賀川市立第三中学校

二年 武田 航大

二年 吉田 旭陽

三年 藤田 結翔

三年 戸梶 璃音

福島県立福島北高等学校

二年 筒井 美乃

福島県立平支援学校

二年 根本 優佳

作品応募校

福島市立福島第一小学校	棚倉町立近津小学校	いわき市立四倉中学校
郡山市立片平小学校	矢祭町立矢祭小学校	学校法人昌平黌東日本国際大学附属昌平中学校
郡山市立薫小学校	猪苗代町立緑小学校	福島県立福島北高等学校
郡山市立富田東小学校	喜多方市立駒形小学校	学校法人福島成蹊学園福島成蹊高等学校
郡山市立富田西小学校	南会津町立松沢小学校	学校法人松韻学園福島高等学校
須賀川市立稲田小学校	新地町立駒ヶ嶺小学校	学校法人国際学園星槎国際高等学校郡山学習センター
須賀川市立阿武隈小学校	相馬市立中村第二小学校	学校法人昌平黌東日本国際大学附属昌平高等学校
須賀川市立柏城小学校	相馬市立飯豊小学校	福島県立平支援学校
鏡石町立第一小学校	相馬市立磯部小学校	
天栄村立大里小学校	相馬市立日立木小学校	
石川町立野木沢小学校	南相馬市立八沢小学校	
玉川村立玉川第一小学校	双葉町立双葉北小学校	
平田村立蓬田小学校	福島市立福島第一中学校	
白河市立白河第五小学校	須賀川市立第三中学校	
	玉川村立玉川中学校	
	白河市立白河第二中学校	
	楡葉町立楡葉中学校	

年度別応募状況

年 度	応 募 校 数				応 募 作 品 数			
	小学校	中学校	高等学校	合 計	小学校	中学校	高等学校	合 計
平成18年度	29	10	1	40	951	385	25	1,361
平成19年度	32	6	4	42	1,749	211	115	2,075
平成20年度	29	2	2	33	1,683	268	45	1,996
平成21年度	24	2	4	30	1,401	159	64	1,624
平成22年度	42	7	2	51	2,859	757	24	3,640
平成23年度	35	7	1	43	3,325	912	4	4,241
平成24年度	47	11	18	76	3,666	735	338	4,739
平成25年度	60	14	20	94	5,602	1,048	889	7,539
平成26年度	48	6	12	66	5,175	1,018	1,027	7,220
平成27年度	45	12	13	70	3,992	1,373	76	5,441
平成28年度	44	11	9	64	4,847	1,433	405	6,685
平成29年度	43	12	9	64	3,542	1,048	477	5,067
平成30年度	35	11	7	53	3,043	1,047	397	4,487
令和元年度	39	8	7	54	2,784	457	198	3,439
令和2年度	26	7	6	39	2,210	744	76	3,030

令和2年度 テーマ別応募作品数

	小学生	中学生	高校生	合 計
いのちの詩・愛の詩	595	105	15	715
わたしにできるボランティア	730	249	29	1,008
わたしのふるさと	468	234	15	717
わたしが感動したことばやできごと	417	156	17	590
応募総数	2,210	744	76	3,030

作品審査を終えて

詩・一〇〇文字作品審査は令和二年度で十五回を迎えました。

しかし、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、学校も休業措置がとられ、子どもたちが学校に通えない日々が続きました。多くの催しが中止され、子どもたちは、外に出て自由に遊ぶこともできませんでした。そのような中で、果たして詩・一〇〇文字提案作品の募集をしてもよいものかどうかとても迷いました。早い企画の段階から中止すべきか……。十年前、東日本大震災の時も震災の被害や放射能の影響を心配し、子どもたちは外で自由に遊ぶことはできませんでした。でも、詩・一〇〇文字提案作品の募集は継続してきました。今回は、以前になく強いステイホームを強いられた子どもたちに、自己表現する場が提供できたら少しは救いになるのではないかと考え、例年とは時期をずらし実施することにいたしました。そんな中で詩・一〇〇文字提案作品の募集を実施しましたところ、三九校から三千点余の作品を応募していただきました。本当に嬉しい限りです。

子どもたちは、限られた生活の中でも、多くのことに気づき、

気づいたことについて考え、さらにどう実践するか考え取り組んできました。そして、その思いを素直な気持ちで表現してくれました。また、忙しい中で真摯に子どもたちを指導してくださいました先生方、本当にありがとうございました。

次に、今までも述べられてきましたが、これからの作品作りについて気を付けてほしいことを記してみます。

一 この「詩・一〇〇文字提案」は、「書く活動」を通して、自分自身を見つめ直すよい機会です。まず、何を書きたいのか、応募のテーマをじっくりと決めてください。

二 一〇〇文字という限られた文字数の中で書きたい核心に迫る表現を工夫しましょう。制限字数で書いてみて、短文で切ってみるのも一つの方法です。また、上学年の皆さんは、感動したことをテーマにしたいのであれば「私が感動したことは」わたしのできるボランティアであれば「私にできるボランティアは」などと書き出す必要はありません。「いのち」「愛」「感動」などのことはもあえて使わず書いてみてください。

三 伝えたいことに読み手を引きつけるのは、作品を書くあなたが、そこに登場することです。体験や経験から生まれた自分の思いを伝えることです。完成した作品は読み直したり周

りの人に読んでもらったりして、思いが伝わったかどうか確かめてみてください。

四 あえて言います。これまでの優秀な作品を参考にするのはよいと思います。しかし、表し方だけをまねて取り入れ、ことばの違いを少し変えただけの作品がありました。また、応募要項では、青少年赤十字で長年大切にしてきたことを基にしてテーマを作っています。テーマをよく読んで理解するとともに、書いた内容がテーマに合っているかどうか、もう一度見直してください。

むすびに、作品を寄せていただいた学校、指導に関わってくださった先生方、そしてたくさん作品を寄せてくれた児童生徒の皆さんに対して、審査員一同心から感謝し、お礼申し上げます。今後とも青少年赤十字活動を身近に感じ、実践することを通して、さらにより作品が生まれることを祈っています。

令和三年一月 二次審査会にて

審査委員長 松田 貞夫



審査にご協力いただいた皆様（敬称略）

☆ 審査委員長（福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長）

○松田 貞夫

☆ 審査委員（赤十字指導講師、青少年赤十字福島県指導者協議会地区会長、福島県青少年赤十字賛助奉仕団員）

青田 富男

石井 幸男

春日 芳則

○菅藤 文彦

後藤 さとみ

佐藤 光男

○栢田 祐子

鈴木 美津子

武田 幸子

永山 誠一

○旗野 厚子

福地 宣久

村田 敏教

山内 寿一

吉岡 映子

青山 邦夫

○鶴沼 美枝子

勝倉 孝行

菅野 孝司

小林 伸行

佐藤 吉則

鈴木 昭雄

鈴木 英孝

東條 侑克

田村 良江

鶴見 常夫

○藤沼 明美

目黒 美智子

山口 彌代

吉田 佳正

阿部 友紀

遠藤 さとみ

金谷 哲

木下 忠孝

今野 滋子

佐原 健一

○鈴木 進一

高野 博幸

鈴木 義人

○土屋 悦男

野口 桂子

廣瀬 要人

星 仁子

皆川 晃

山下 富夫

吉田 和賀子

荒川 孝子

面川 孝子

○川田 昌利

黒澤 一男

齋藤 吉成

下重 悦子

鈴木 雅之

高橋 光雄

中野 喜久枝

角田 和弘

長谷川 文之

○福士 寛樹

安田 悠子

山寺 精吉

渡邊 勲

篠木 敏明

岸波 庄一

石田 政幸

野崎 謙司

佐藤 敦子

阿部 正明

小池 樹里

（日本赤十字社福島県支部）

事務局長

事務局付部長兼総務課長

組織振興課長兼ボランティア係長

社員係長

組織振興課

※○印…二次審査員

